

第4回 2011年7月出発 参加者  
●岡田 正人さん、ホスト：仁荷大学校

---

### 1. 応募したきっかけ

私が Summer Institute に応募したきっかけは、私の所属研究室の教授からの提案でした。当時、私は国際学会を控えており、海外で活動し、海外の人と交流することがこれからの研究生活で重要になると感じていました。また、相手の研究室の研究は私の研究分野と近く、韓国における最新の研究に関われることに興味をもち、応募を決意しました。

### 2. 事前準備

韓国留学の選考に合格した後は、英語の学習を行いました。しかし、実践的な英会話を学習することができなかったため、この時期では英語力を十分に向上させることができませんでした。韓国語の学習では韓国語の本を購入しましたが、発音や文字読解を一人で学ぶのは困難であると感じました。結果として韓国での韓国語研修でハンブルを読めるようになったので、しっかりと韓国語を学ばなければ教えてもらうことが最善だと感じました。研究先との連携はあまり行っておらず研究内容について認識のずれがありました。留学期間が十分にあったのでしっかりと共同研究を行うことができました。また、事前に手持ちの PC に搭載されていた Wimax 機能を韓国でも利用できるように契約を行いました。これにより韓国国内では常にインターネットに接続することができ、翻訳機能等を用いたコミュニケーションも行うことができました。

### 3. 現地研修

韓国短期留学において私は韓国仁川の Inha (仁荷) 大学に滞在しました。同大学の研究室では現在セマンティックウェブを中心に研究を行っています。共同研究を通じて私は様々なことについて学ぶことができました。第一に情報科学における最先端技術であるセマンティックウェブに触れ、その考えや技術について学ぶことができました。日本での研究とは異なる分野を学び、研究者としての視野を広げることができました。また、韓国ではコミュニケーションのほとんどを英語で行いました。私は英語が得意ではあり

ませんでしたが、留学中は研究室のメンバーと進んで英語でのコミュニケーションを行い、実践的な英語学習を行うことができました。特に、研究に関する議論を英語で行ったことが強く印象に残っております。議論においては相手の意見をしっかりと理解し、かつこちらの意見を正確に伝える必要があります。そのため、ジェスチャーや図等を利用することや、自分の語彙内で正確に伝えるための言葉の組み立てが必要でした。

### 4. この研修を通じて得たもの

今まで外国人との本格的なコミュニケーションをとる機会がなかった私にとって、この点が今回の留学においての自分の最大の成長です。最後に、今回の短期留学を通して韓国の研究者とのつながりを作ることができました。これは日本という狭い範囲での研究から脱却するという点で非常に重要でした。これからも、このつながりを絶やさず、かつ多くの研究者との交流を持ちたいと考えています。

### 5. 参加する人へのアドバイス

これから韓国留学を希望する方は、第一に英語能力をしっかりと身に付けることが大切です。英会話教室などで実践的な会話を学ぶことをお勧めします。また、滞在先にどのような設備があるか、周辺にどのような店舗があるかなども事前に調査しておくといよいでしょう。私の場合は近くに大型ショッピングセンターがありましたが、滞在先によっては購入できないものがあるかもしれません。最後に、相手の研究室のメンバーとどんどんコミュニケーションをとりましょう。それが研究や生活を楽しむ一番の方法です。